

2017 年度
「シチズンシップ・スタディーズⅠ」
(地域活性化ボランティア)
受講ガイド《OIC 版》

立命館大学サービスラーニングセンター

衣笠：有心館 1 階

Tel: 075-465-1952 / Fax: 075-465-1982

BKC：アドセミナリオ 1 階

Tel: 077-561-5910 / Fax: 077-561-5912

OIC：A棟 1 階AN事務室

Tel: 072-665-2195 / Fax: 072-665-2059

(3 キャンパス共通)

窓口時間(開講期間中)：月曜日～金曜日/10:00～17:00

サービスラーニングセンターe-mail: ritsvc@st.ritsumei.ac.jp

サービスラーニングセンターHP: <http://www.ritsumei.ac.jp/slc>

目 次

はじめに（重要なお知らせ）	2
ボランティア活動を通して地域で学ぼう！	
ボランティアだけで奉仕活動じゃない。授業だけど講義じゃない。それがサービスラーニング！	
1. 「シチズンシップ・スタディーズ I」の流れ	4
2. 学研災付帯賠償責任保険について	6
3. 評価について	6
4. 受講の中止について	6
5. 大学での授業スケジュール	7
6. 教員による指導・アドバイス（コアタイム）、受講中の諸相談について	7
7. 学部別単位授与について	8
8. FAQ（よくある質問）	9
9. 活動する上で心がけたいこと	10
10. プロジェクト紹介	12～

プロジェクト一覧

キャンパス	プロジェクト名	クラス	曜日時限	担当教員	掲載ページ
OIC	地域通貨で子どもがハッピーになるプロジェクト	GV	火曜 5 限	秋吉 恵	P12
	茨木火起こしプロジェクト—茨木北部地域の活性化—				P14
3キャンパス合同	ネパール・子どもスマイルプロジェクト	G	土日等の授業日以外に実施	秋吉 恵	P16
	ネパール・女性×フェアトレードプロジェクト				P18

はじめに（重要なお知らせ）

- 何事においても積極的に取り組んでください。
- ボランティア活動に責任をもち、途中で投げ出さず、常にあなたのやる気を発揮してください。
- ボランティア活動全体を通して、仲間とのコミュニケーションを心がけ、すべての仲間への配慮を忘れないでください。
- キャンパスを離れ、地域で活動し、学んでいることに留意し、常に地域社会の一員として自覚ある行動を心がけてください。
- ボランティア活動先でトラブルなどが発生した場合は、直ちにサービスラーニングセンターに相談してください。
- 本ガイドや各種書類、サービスラーニングセンターホームページの情報をよく読み、記載内容の見落としがないよう注意してください。
- 各種提出書類の期限を厳守してください。
- 各種書類の提出は本人に限ります。
- 不明な点や質問がある場合は、サービスラーニングセンターに問い合わせてください。
- 記載されている内容や日程が予告なしに変更される場合があります。各自、確認を心がけてください。

ーボランティア活動を通して地域で学ぼう！ー

「シチズンシップ・スタディーズⅠ」(7 回生以上:地域活性化ボランティア。以下、「シチズンシップ・スタディーズⅠ」で統一します)は、立命館大学サービスマーケティングセンターが開講する正課科目です(課外活動ではありません)。この授業は、みなさんがボランティア活動を通じて地域に貢献しつつ、地域社会の一員としての自覚と能力を育み、専門知識の応用的な理解を深めることを目標としています。

ボランティア活動は、大学のキャンパス内だけでは得られない、かけがえのない経験を受講生にもたらしてくれます。さらに、地域で活動を行うことは、自らが暮らす地域をこれまでとは違った視点で捉えることを可能にするだけでなく、大学で学ぶ知をいかに地域で活かせるかを学ぶ契機となります。

ボランティアプログラムの開発・運営にあたっては、大学やサービスマーケティングセンターが京都府、滋賀県や大阪府内の行政、公的機関、NPO、地域組織などと協定(覚書)を締結した上で実施します。

ボランティア活動の期間は、数日程度の短期で行うものから、数ヶ月程度の長期で行うものまでさまざまです。受講生が自身の興味や関心に沿って、参加するボランティア活動を選択することができます。

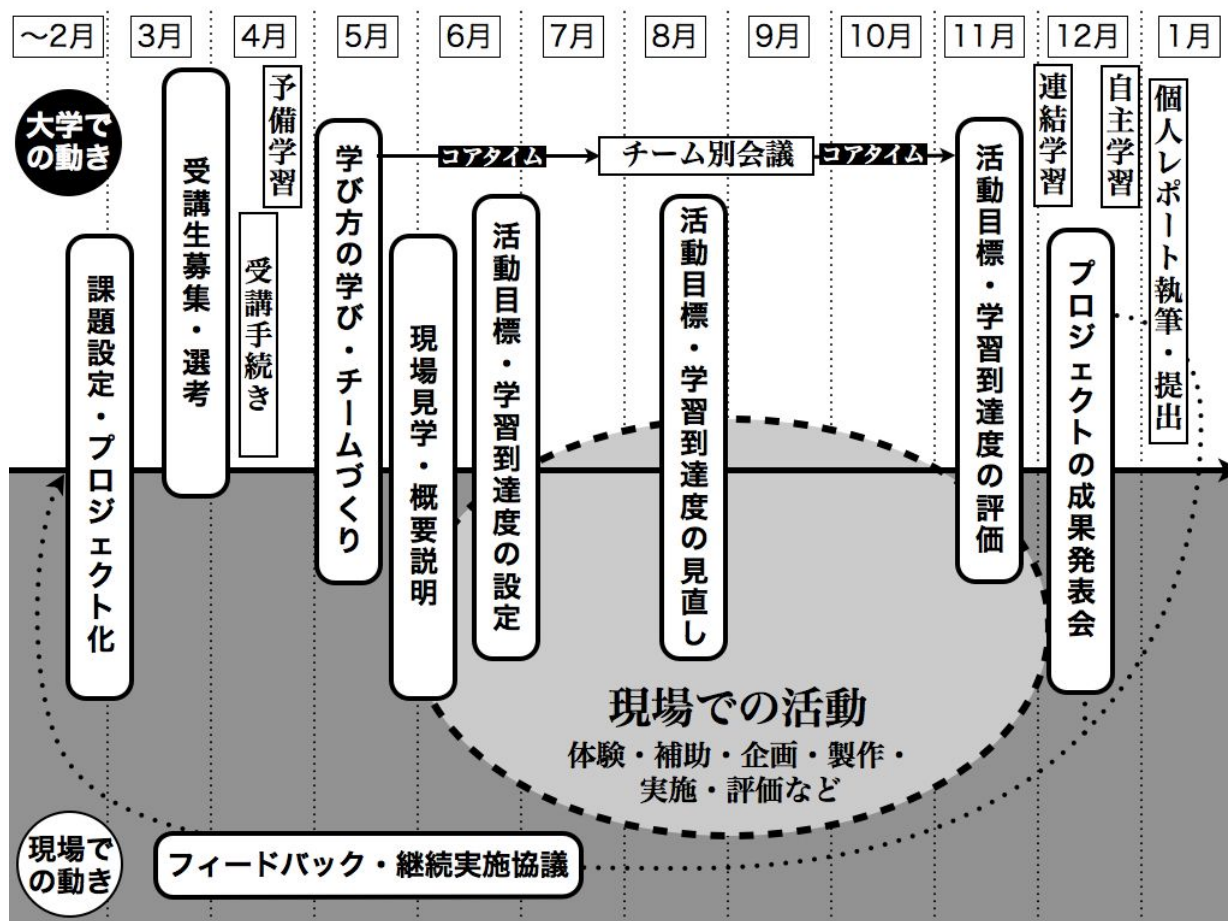
ボランティア活動の魅力を体感しながら、大学で学ぶ知に生きた風を呼び込んでください。

ーボランティアだけど奉仕活動じゃない。授業だけど講義じゃない。

それがサービスマーケティング！ー

「シチズンシップ・スタディーズⅠ」は、「奉仕活動」ではなく「ボランティア教育」プログラムです。ボランティア教育とは、体験的学習の一形態で、ボランティア活動を中心に事前・事後の学習(研修・振り返り)を組み、明確な教育目的に基づいて行われる教育プログラムです。よって、ボランティア活動を通じて、他者や地域(コミュニティ)の役に立つだけでなく、そこから学習効果を得られるよう設計されます。この点が、純粋な「奉仕活動」との違いです。単にボランティア活動に参加すれば、単位が認定されるというわけではありません！ボランティア活動を通して何を学びたいのか、確かな問題意識をもって取り組むことが重要です。

また、このような教育手法は、欧米ではサービスマーケティング(service-learning)またはコミュニティサービスマーケティング(communitary service-learning)と呼ばれています。



1. 「シチズンシップ・スタディーズⅠ」の流れ

エントリー	
エントリー期間 2017 年 3 月 23 日(木)10:00～4 月 6 日(木)11:00 エントリー方法 サービスラーニングセンターホームページ内「シチズンシップ・スタディーズⅠ/地域活性化ボランティア」のページより、Web 上にて必要事項を入力し、エントリーしてください。	エントリーに伴う諸注意 ・エントリーの内容をもとに選考を行います。 ・1 人の受講生が参加できるのはひとつのプロジェクトのみです。 ・選考を通過した人数が 5 人未満の場合、プロジェクト実施を中止する場合があります。 ・所属キャンパスと異なるキャンパスをベースとするプロジェクトに参加することはできません。

選考結果発表と必要な手続き	
発表日時 : 2017 年 4 月 7 日(金)15:00 発表方法 : サービスラーニングセンター窓口・HP ※ 早めに確認してください。 ※ 受講前ガイダンスの案内も掲示します。	受講許可者を対象に、以下日程で受講前ガイダンスを行います。賠償責任保険への加入手続きも行います。 GV: 4 月 11 日(火)5 限 G : 4 月 23 日(日)4 限

事前学習Ⅰ・Ⅱ(授業2回分)
①ボランティア活動について理解を深める ②ボランティア教育について理解を深める ③ボランティア教育(シチズンシップ・スタディーズⅠ)における「学び方」を理解する ④地域に入って活動するための心構えを整える ⑤受講生同士が交流し、これから共に活動し、学ぶ仲間としてチームワークを育む

オリエンテーション
①ボランティア活動先の地域について理解を深め、ボランティア活動の意義を考える。 ②地域に入って活動するための心構えを整える。 ③受講生同士が交流し、これから共に活動し、学ぶ仲間としてチームワークを育む。

課題
オリエンテーションの終了後、各自ジャーナルを作成し、事前学習Ⅲに持参すること。

事前学習Ⅲ(授業1回分)	
①プログラム毎に受講生全員が共有する「活動の目標」と受講生個別の「学びの目標」を設定し、活動と学びの準備を整える。	
②大学での学びと地域課題を結びつける視点をもつ。	持参物:ジャーナル



ボランティア活動(42 時間以上)

- ①(地域への貢献)地域において課題解決の一助となり、地域(地域住民)に貢献する
- ②(学習効果)社会の一員としての自覚と能力を育み、かつ受講生が日々大学で学ぶ専門知識の応用的理解を深める

※活動時間の合計はプログラム共通で 42 時間以上が必要です。活動時間には、活動先でのオリエンテーションや反省会なども含まれます。

※以下の時間はボランティア活動時間には含まれません。その他の活動で、ボランティア活動に含まれるかわからない場合は、担当教員に相談してください。

- ・授業
- ・授業や活動報告会の準備
- ・コアタイムでの教員による指導、アドバイスの時間

※毎回の活動時間ごとに、「活動時間記録シート」に受け入れ先のサインをいただき、「ジャーナル」に活動内容と学んだことを記入すること。

コアタイム(週 1 回)

- ① それぞれの活動先での取り組みを共有し、学びを深めるための時間を設ける。
- ② 担当教員による指導やアドバイスを行う。
※ジャーナルの提出など、少なくとも月に 1 回はコアタイムを活用すること
※コアタイムの実施日時は、教員から指示、または教員と調整の上決定します

中間ふりかえり(授業1回分)

- ① 目前の活動や個別の課題にのみ集中してしまいがちな活動を一旦休止し、前半の活動を振り返ることで目標をもって活動に臨んでいることを再確認する。
- ② 受講生が活動中に直面した問題や悩みを共有する機会をもつことで、「学び」を深める。

持参物:ジャーナル

事後学習 I・II(授業2回分)

- ①活動中の問題や悩み、感動や喜びを「学び」と「感情」の両面で整理する
- ②自らの活動を評価する(事前学習Ⅲで設定した 2 つの目標を達成できたか、地域が抱える課題解決の一助となり得たか等)
- ③プログラムを通じて学んだことを今後につなげていくのかを検討する
- ④「活動報告会」に備えて発表準備を行う

持参物:ジャーナル

活動報告会(授業2回分)

- ①ボランティア活動は、地域の課題解決の一助となり得たか(ボランティア活動によって地域は活性化したと言えるのか、活動は地域にどのような影響を与えたのか)
- ②事前学習Ⅲで設定した「プログラムの目標(プログラム毎に受講生全員で共有)」と「自身の目標(受講生各人が自らの専門と関連させて個別に設定)」を活動によりどのように達成したか
- ③プログラムを通して、受講生自身はなにを「学び」、どのように「成長」したのか
- ④受講の経験やそこから得た「学び」を今度どのように活かすのか

場所:大阪いばらきキャンパス(3キャンパス合同で開催します)

発表:20 分(質疑応答含む)/1 プロジェクト ※発表準備はプロジェクト全員で行う。

評価対象物(レポートなど)提出

2. 学研災付帯賠償責任保険について

「シチズンシップ・スタディーズ I」の各プロジェクトに参加するためには、事前に公益財団法人 日本国際教育支援協会の「学研災付帯賠償責任保険」(保険料 210 円/1 名)に加入する必要があります。選考を通過し受講が決定した学生は、受講前ガイダンスの際に保険加入手続きを行って下さい。保険加入の手続きは、センターが一括して行います。すでに当該保険に加入している場合は、その旨申し出てください。

「学研災付帯賠償責任保険」についての詳細は、パンフレットまたは下記 URL をご参照ください。

<http://www.jees.or.jp/gakkensai/opt-baisho.htm>

3. 評価について

「シチズンシップ・スタディーズ I」は P/F(合格/不合格)評価です。評価は下記の要件、それぞれの内容をもとに行います。

- ① 原則、事前学習 I～Ⅲ、中間振り返り、事後学習 I・II、活動報告会のすべてに出席していること
- ② 「シチズンシップ・スタディーズ I」プロジェクトのボランティア活動(オリエンテーション含む)を合計 42 時間以上行なっていること
- ③ 定められた期限までに評価対象物(レポートなど)を提出すること

(諸注意)

- ・ 所属学部や回生によって、開講していない場合があります。詳しくは、P8 を参照してください。
- ・ 事前学習 I～Ⅲ、中間振り返り、事後学習 I・II、活動報告会の欠席は、原則認められません。ただし、やむを得ない理由でこれらを欠席した場合は、受講継続を認められることがあります。事前の届出を原則としますが、事後となった場合は、当該の授業日を含む 2 日以内とします。理由によっては、証明書の提出を求める場合があります。

4. 受講の中止について

受講生は受講開始後、以下の場合には、受講を中止することができます。

- ① 受講を継続することが困難になった場合
- ② 教育的配慮により、担当教員等が受講継続を困難と判断した場合

受講中止を希望する場合、担当教員に相談の上、「受講中止届」をサービスラーニングセンターに提出してください。なお、受講中止届を提出しても、受講登録の取り消し(受講辞退)にはなりません。受講許可後、評価の要件を満たさずに受講中止届を提出した場合、F 評価となります。

5. 大学での授業スケジュール

<OIC>

GVクラス(秋吉先生)

内容	月日	曜日	時限	教室
受講前ガイダンス	4月11日	火	5	AN 221
事前学習Ⅰ	5月9日	火	5	AN 221
事前学習Ⅱ	5月16日	火	5	AN 221
事前学習Ⅲ	6月13日	火	5	AN 221
中間振り返り	8月24日	木	5	AN 221
事後学習Ⅰ	11月7日	火	5	AN 221
事後学習Ⅱ	11月21日	火	5	AN 221
活動報告会	12月10日	日	13:00～	OIC B374 予定

<3 キャンパス合同>

G クラス(秋吉先生)

内容	月日	曜日	時限	教室
受講前ガイダンス	4月23日	日	4	朱雀 多目的室②
事前学習Ⅰ	5月21日	日	3	朱雀 多目的室②
事前学習Ⅱ	5月21日	日	4	朱雀 多目的室②
事前学習Ⅲ	6月10日	土	4	朱雀 多目的室②
中間振り返り	8月25日	金	4	OIC AN 221
事後学習Ⅰ	11月11日	土	1	朱雀 多目的室②
事後学習Ⅱ	11月11日	土	2	朱雀 多目的室②
活動報告会	12月10日	日	13:00～	OIC B374 予定

6. 教員による指導・アドバイス(コアタイム)、受講中の諸相談について

担当教員による指導・アドバイスをうけるため、また学びを深めるため積極的にコアタイムを活用してください。コアタイムは、教員からの指示、または教員と受講生が相談の上、日時、場所を決定しますが、基本となる時間、教室は以下の通りです。

<OIC>

【GVクラス(秋吉先生)】 時間: 火曜 5 限 教室: AN221(前期・後期)

<3 キャンパス合同>

【Gクラス (秋吉先生)】 日時: 6/10(土)5 限(朱雀)、7/1(土)3,4 限(朱雀)、
8/25(金) 5 限～8/26(土) 2 限(合宿・OIC)、10/1(日)2,3,4 限(OIC)

活動を進めるにあたり、活動先との関係作りや、心構え、活動に必要な備品などの点でアドバイスが必要なときは、担当教員もしくはサービスラーニングセンター窓口まで相談してください。

7. 学部別単位授与について

「シチズンシップ・スタディーズⅠ/地域活性化ボランティア」の単位授与は、所属学部、入学年度によって異なります。

・「シチズンシップ・スタディーズⅠ」【2012 年度以降入学生】

学部	入学年度	単位	科目名	単位授与区分	要卒	年間受講登録 上限単位
経営学部	2012 年度以降 入学生	2	シチズンシップ・スタディーズⅠ	教養科目 C 群	要卒	含まれる
政策科学部	開講しない					
総合心理学部	2016 年度以降 入学生	2	シチズンシップ・スタディーズⅠ	教養科目 C 群	要卒	含まれる

・「地域活性化ボランティア」【2011 年度以前入学生】

学部	入学年度	単位	科目名	単位授与区分	要卒	年間受講登録 上限単位
経営学部	2011 年度以前 入学生	2	地域活性化ボランティア	自由選択科目	要卒	含まれる
政策科学部	2011 年度以前 入学生	2	地域活性化ボランティア	随意科目(自由科目)	要卒とし ない	含まれない

8. FAQ（よくある質問）

Q1. 2つのプロジェクトにエントリーできますか？

A1. いいえ。1人の受講生がエントリーできるのは、1つのプロジェクトのみです。よって、1人の受講生が2つ以上のプロジェクトを受講することはできません。慎重に選んで、エントリーしましょう。

Q2. 事前学習や事後学習を受けずに、ボランティア活動にだけ参加できますか？

A2. いいえ。「シチズンシップ・スタディーズⅠ」は、ボランティア活動も含めて事前学習Ⅰから活動報告会までがひとつのセットになった授業なので、どこか一部分だけに参加することはできません。しかし、正課授業としての「シチズンシップ・スタディーズⅠ」以外にも、サービスラーニングセンターでは多くのボランティア情報を提供しています。「シチズンシップ・スタディーズⅠ」の受講に関わらず、ぜひ参照してみてください。

Q3. お金がかかりますか？

A3. プロジェクトによって異なります。受講料などはありませんが、ボランティア活動先への交通費や終日活動する場合の昼食代などがかかる場合があります。また、宿泊を伴うプロジェクトでは、別途宿泊代と食費がかかります。

Q4. ボランティア活動の経験がなくても、受講できますか？

A4. はい。ボランティア活動の前後に事前学習や事後学習（ふりかえり）があるので、ボランティア活動未経験の受講生も安心して受講できます。活動中に不安やトラブルが生じた場合は、いつでも担当教員またはサービスラーニングセンターへ相談してください。

Q5. 単位授与されますか？

A5. 必要な要件を満たすことで単位が授与されます。ただし、授与分野等は学部によって異なります。（一部、開講しない学部・回生もあります）

Q6. 他の授業と重なった場合、「授業配慮願い」や「公欠届」などは出ますか？

A6. いいえ。ボランティア活動の実習日と他の授業が重なった場合でも、サービスラーニングセンターから「授業配慮願い」などは出せません。重複しないよう注意してスケジュールを確認のうえ応募してください。万が一重なってしまった場合は、受講生各自の責任において対応してください。なお、「他の授業の受講」を理由に「シチズンシップ・スタディーズⅠ」を欠席することも認められません。

Q7. 学研災付帯賠償責任保険には必ず加入するのですか？

A7. はい。シチズンシップ・スタディーズⅠを受講するには、公益財団法人 日本国際教育支援協会の「学研災付帯賠償責任保険」に加入する必要があります。この保険は、正課活動中の損害（ケガや事故など）を補償するための保険で、受講生には全員加入が義務付けられています。保険加入の手続きは、サービスラーニングセンターが一括して行います。すでに当該保険に加入している場合は、二重に加入する必要はありませんので、事前ガイダンスの際にその旨申し出てください。

9. 活動する上で心がけたいこと

①気持ちのよいあいさつをしましょう！

挨拶はすべての基本です。気持ちのよい挨拶はコミュニケーションの大切な第一歩です。

②言葉づかいに気をつけましょう！

受入先の方は地域課題を教えてくれる目上の社会人です。対等平等な「友達」ではありません。尊敬と感謝の気持ちを持って言葉遣いに気をつけましょう。

③約束・ルールを守りましょう！

ボランティア活動は人と人との信頼によって成り立ちます。約束やルールを守することは基本中の基本です。自分の勝手な都合で約束やルールを違えることは、受入先の迷惑になるだけでなく、信頼関係を壊します。特に、無断での遅刻や欠席は、受入先に多大な迷惑をかけてしまいますので「厳禁」です。

④秘密は守りましょう！

活動中に知った情報の中には、個人の秘密にしておきたい情報もあることでしょう。こうした情報は絶対に口外してはいけません。秘密は守る！これも信頼を築く基本です。

⑤服装や持ち物は TPO をわきまえましょう！

活動先の仕事の中には、特に服装や持ち物について注意を促されることがあります。

そのことには全て理由があります。自分の意見やポリシーよりも、この注意を守ることが優先してください。

⑥わからないことは遠慮なく質問しましょう！

わからないことがあるのは、当たり前です。わからないことがあったら、授業を担当する教員や、受入先の担当者、サービスラーニングセンターのスタッフに遠慮なく聞きましょう。

⑦自主性を持って活動しましょう！

活動中、何をしたいかわからないこともあります。そのときは、「言われるまで何もしない」のではなく「何かお手伝いすることはありますか？」と聞きましょう。自分から動く姿勢を持つことで、より成長を実感できるでしょう。

⑧周りの人との関係を大切にしましょう！

ボランティア活動は、周りの人の気持ちを考え、相手の立場に立った行動をすることがとても大切です。みんなが気持ちよく活動できるように心がけましょう。

メモ

This image shows a single sheet of white paper with horizontal ruling lines. The lines are evenly spaced and run across the width of the page. There are no margins, text, or other markings on the paper.

プロジェクト名:

地域通貨で子どもたちがハッピーになるプロジェクト

受入団体名:NPO法人暮らしづくりネットワーク北芝

募集人数

5名

<受入団体からのメッセージ>

子どもの貧困課題解決に地域通貨を活用する試みは、世界の中でも珍しい取り組みです。

可能性は未知数で、学生のみなさんの柔軟な発想によって、子どもたちが豊かな選択をしていける大人になっていくかもしれません。

特別な知識は必要ありません。「なんだかおもしろそうなことやってるな!」「とりあえずやってみよう!」とまず思ってもらえれば、それでOKです。

<活動期間:2017年5月~2017年12月 活動日数:15日程度>

<主な実習場所>

らいとぴあ21(最寄バス停:阪急バス萱野三平前(茨木-石橋線))

<日常的なコミュニケーションの手段>

(○)電子メール (○)Facebook (○)LINE (○)電話

<活動する現場で学生が求められる理由>

当法人は現場で働くメンバーの8割が20代~30代です。年の近い若い人たちと活動をつくっていくことで、私たちも常に刺激を受け、初心を忘れないことにもつながっていきます。

<活動パターン>

(○)毎週1日程度・定例

()月1~2回・不定期

()主に夏期休暇・集中

()その他

→具体的には…

<活動のテーマと主な内容>

子どもの貧困課題解決のために子どもたちの「やってみようかな」を増やす

当法人が生まれた箕面市の北芝というエリアは被差別部落であり、差別から始まった貧困が連鎖という形で未だ問題を抱える家庭も多くあります。そして、今や「子どもの貧困」課題はいたるところにあり、誰でもそのような状態に陥る可能性があります。そういった状態の子どもたちや家庭が存在する地域の中で、どのようにその子どもや親をエンパワーし、未来に悲観することなく生きていけるようにするか、たくさんの方の仕組みを整えています。今回は、当法人が発行・流通させている地域通貨「まーぶ」を用いて、子どもたち自身が「やってみようかな」と思い、「やってみてよかった!」と思えるような学ぶ遊ぶプログラムを考えていきます。



<期待できる学び>

「子どもの貧困」がなぜ社会問題になっているのかを知ることができるようになる

貧困問題へのアプローチ方法の多様さを考えられるようになる

困っている子どもたち一人一人に合ったアプローチ方法を考えることができるようになる

<活動の流れ>

5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月

地域・活動を知る
 ・地域の歴史を知る
 ・これまでの活動を知る
 ・北芝が直面している社会課題について知る
 ・子どもたちとの出会い
 ・「まーぶ」に関わるイベントへの参加

日時	活動内容
4月16日	芝楽市(参加できれば)
4月22日	みのおキューズモールにてこどものお仕事体験イベントの運営
5月19日	芝楽市(みんなで食べる朝ごはんがコンセプト)
5月27日	みのおキューズモールにてこどものお仕事体験イベントの運営
6月17日	地域総会への参加
6月24日	みのおキューズモールにてこどものお仕事体験イベントの運営



「まーぶ」を用いた子どもたちを
 エンパワーする企画を考える
 ・前年度シチスタメンバーが考えたイベントをブラッシュアップする
 ・新しい企画を考える どちらか

日時	活動内容
7月1日	いこい縁日(地域内のおまつり手伝い)
7月16日	たいまつ・むぎわら(地域内のおまつり手伝い)

他、日にちが未決定のイベント等が複数あり

「まーぶ」を用いた子どもたちを
 エンパワーする企画の実施&振り返り
 ・実際に企画を実施し、どのような効果が
 あったかを振り返る

地域の中で開催されるイベントや日常的に開かれている居場所<子ども～高齢者>への参加(可能な限り)



<受講生に求めること>

費用	特にありませんが、活動時間が長時間にわたる場合の食費や交通費は実費負担 活動にかかる経費については法人が負担します。
参加の 姿勢	「なんかオモシロそう」「知らない」「わからない」大歓迎！
終了後 の評価	担当者とのふりかえり NPOスタッフや住民向けの報告

<その他、プロジェクト実施にあたって期待すること(教職員も含めて)>

何かあった時にすぐに連絡を取り合える、相談しあえる関係性。

プロジェクト名:

茨木火起こしプロジェクト—茨木北部地域の活性化—

受入団体名: 茨木ほくちの会 (茨木市北部地域協議会)

募集人数

10名

<受入団体からのメッセージ>

茨木北部地域は高齢化や休耕地、里山の荒廃等、様々な課題を抱えています。その課題を少しでも解決していこうと、今、地域では未来に向けた活性化の火種がたくさん起こっています。私たちは、その火種を集め、火を大きくする火口(ほくち)になりたいと活動してきました。火を起こすには、火種をつくり、火種を集めたほくちに、風を送り込むことが重要です。私たちは地域の外の視点で、新しい風を吹き込んでくれる仲間を探しています。茨木の農村地域が抱える様々な課題を「遊び」と「ビジネス」で解決していきたいと考えています。与えられる遊びや仕事ではなく、自分たちで考え、創り上げていく面白さを学生の皆さんやまちの人たちと共有していきたいのです。決して簡単に解決できるものではありませんが、多様な価値観や背景の人たちが集まり、知恵を出し合えば、何だってできるんじゃないかと思っています。

<活動期間: 2017年5月～2017年11月 活動日数: 15日程度>

<主な実習場所>

茨木市北部 千提寺(最寄バス停など: 阪急バス「千提寺口」)

<日常的なコミュニケーションの手段>

(○)電子メール (○)Facebook ()LINE ()電話

<活動する現場で学生が求められる理由>

若い柔軟な発想と、行動力に期待しています。
ダッシュ村のように休耕地と荒れた里山も蘇らせていきますので、体力も重要です!

<活動パターン>

()毎週1日程度・定例
(○)月1～2回・不定期
()主に夏期休暇・集中
()その他
→具体的には…

<活動のテーマと主な内容>

子どもたちと茨木ほくちの魅力を発見する

茨木市北部(ほくち)には、16の集落の人々によって守られてきた豊かな里山と、棚田、地域の特産野菜があり、新規就農者や、市内外から森の手入れに通う方々の集う場所です。ほくちの会では、このほくちの豊かさを守っていくために、子どもたちに農と里山の面白さを伝えるプログラムを実施しています。

このプロジェクトでは、耕作放棄地や里山の有効活用や、子ども農業ビジネススクールを、地域の大人や子どもと一緒に作ってきます。大学生のみなさんには、子どもたちに寄り添い、彼らが茨木ほくちの魅力を発見するお手伝いをしていただきたいと思います。具体的には、子どもたちがほくちの自然や文化と出会う場や、ほくちの農や里山を南部住民に伝える企画を、ともに作ってください。茨木市の未来を担う子どもたちを、ほくちの会と一緒に育ててきましょう!それが、未来のほくちを開拓することにつながります。

<期待できる学び>

茨木市北部の状況を理解できるようになる。

日本における中山間地の農業、農村が抱える課題を理解できるようになる。

中山間地と市街地が近距離に位置する茨木市の特徴を実感できるようになる。

ほくち住民(農業者)と茨木市南部住民(市街地住民)双方の背景を理解できるようになる。

社会問題の解決に向けて、試行錯誤を繰り返しながら考え続ける体力を身につけることができる。

<活動の流れ>

- 5月 タケノコ狩り:千提寺集落
合宿(NPOや他大生との協働でやりたいこと探し):青少年野外活動センター
- 6月-7月 人を知る(茨木ほくちずプロジェクト)
土地を知る(星を観る、野生動物と出会う、焚き火をする、水源を知るetc)
生活を知る(農作業のお手伝い、農業・里山ビジネス作戦会議)
- 8月-9月 耕作放棄地 開拓キャンプ:千提寺集落
- 10月 稲刈りなど農作業のお手伝い
- 10月下旬~11月 農業・里山ビジネス実践:立命館大学Asia Week
or バルフェスタいばらき
- 12月上旬 報告会

希望者は、
12月 独活小屋づくり
3月 独活収穫見学

* 農業・里山ビジネスとは:子どもが里山や休耕地の資源を使って、0から1を生み出し、イベントなどで販売することで、農業・里山ビジネスの一端を学び、その魅力を知ることが目的とする取り組み。

<受講生に求めること>

費用	茨木市北部地域までの交通費
参加の姿勢	「遊び」と「ビジネス」を自分たちで創りあげるプロセスを楽しむ
終了後の評価	担当者とのふりかえり 住民等への報告

<その他、プロジェクト実施にあたって期待すること(教職員も含めて)>

地域にはない視点から生まれる新しいアイデア・知恵と、若いみなさんの体力に期待しています。

プロジェクト名:

ネパール・子どもスマイルプロジェクト

受入団体名: シャプラニール＝市民による海外協力の会

募集人数

5名～16名

※「ネパール・子どもスマイルプロジェクト」と「ネパール・女性×フェアトレードプロジェクト」の合計人数

<受入団体からのメッセージ>

ネパールにどんなイメージを持っていますか？ヒマラヤ山脈、世界遺産、2015年の大地震、最貧国……。小さな国でありながら様々な顔を見せるのがネパールです。そして、ネパールの子どものにも私立の学校に行って英語が流ちょうな子もいれば、小さいころから働くのが普通の子どもたちもいます。子どもたちの暮らしや、子どもたちを取り巻く環境を実際にネパールの子ども、NGOスタッフと活動することで体感してみませんか。皆さんが子ども支援と一緒に関わることで、現地のNGOスタッフにも刺激になります。皆さんの参加をお待ちしています。

<活動期間: 2017年5月～2017年12月 活動日数: 15日程度>

<主な活動場所>

ネパールおよびキャンパス近郊

<日常的なコミュニケーションの手段>

(●)電子メール (●)Facebook ()LINE ()電話

<活動する現場で学生が求められる理由>

・児童労働現場や虐待などを受けた子どもが保護されているシェルターでの子どもたちは学生と交流することで楽しみ、癒され、人から愛され大事にされることを感じることができます。
・日本の文化を共有したり若者ならではの視点での交流は、子どもたちにとっても大きな学びと刺激になります。

<活動パターン>

()毎週1日程度・定例

()月1～2回・不定期

(●)主に夏期休暇・集中

(●)その他

→具体的には…

キャンパス近郊国際協力イベント

ネパール実習

OIC Asia Weekなど

<活動のテーマと主な内容>

ネパールの子どもと笑顔に

ネパールでは、5人に1人の子どもが働いています。ネパールは世界的に見ても児童労働が多い国です。大規模なレストランや工場など行政に登録して営業する業種では、児童労働は減ってきていますが、家事使用人やポーター、小さなレストランや茶店など行政の目が届かない業種ではいまだ大きな社会問題です。

この問題に取り組むネパールのNGO CWINでのボランティアを行います。CWINは子どもの権利拡充のための啓発活動、政策提言を活発に行いつつ、ストリートチルドレンや働く子どもなど、厳しい状況に置かれている子どもたちへの直接的な支援にも取り組んでいます。また、ネパール政府からの委託を受け、無料電話相談サービスである「チャイルド・ヘルプ・ライン」も運営。現在、約160人のスタッフを抱え、30の郡(DDC)で活動を展開しています。

ネパール渡航時には、カトマンズにあるCWINのヘルプセンターでレスキューされてきた子どもたちと一緒に楽しい時間を過ごすプログラムを企画・実施。また、こうして働かざるを得ない子どもたちが生まれてしまう現状を学校や地方行政の訪問等を通じて体感します。これらネパールでの経験を生かして、帰国後には、日本でできることを企画、実践します。

<期待できる学び>

途上国において、深刻な問題となっている、子どもの貧困という社会問題について、実際の現場を体感することを通じた深い学びを得ることができます。また、その問題に長年にわたって取り組んできたNGOにおいて、スタッフやネパール人大学生ボランティアとともに、子ども支援に携わることで、解決に向けた活動に加わる機会を得ることができます。

さらに、これらの経験を通して、途上国の子どもの貧困を解決するために、私たちがすべきこと、できることを考えるモチベーションを得ることができます。そして、実際にキャンパスもしくはその近郊で、解決に向けた行動をとる機会を模索することができます。

<活動の流れ>

5/21(日)3,4限 事前学習Ⅰ,Ⅱ(ボラとは?興味関心)

6/10(土):3限 ネパールにおける社会課題の理解【シャプラストaffからスカイプなど】

4限 事前学習Ⅲ(目標設定)

↓

6月下旬～8月 関西近郊で行われる国際協力イベントへの参加

【地域連絡会イベント、児童労働反対キャンペーン、ステない生活などでのボランティア(関西近郊)】

【希望者はユースForumや集いなどへの参加(夏休み 関東近郊)】

7/1(土) 3,4限:コアタイム 社会課題理解のための勉強会など

↓

8/25(金) 4限 中間ふりかえり

5,6限,宿泊,8/26(土)1,2限 コアタイム実習準備【シャプラストaff/地域連絡会参加】

↓

9月9日(土)～16日(土)(予定) ネパール実習:ボランティア活動&コアタイム(毎日のふりかえり)

【シャプラ ネパール事務所スタッフ参画】

↓

10/1(日) 2,3,4限 コアタイム 実習ふりかえり&Asia Week 準備

10月～11月上旬 関西近郊で行われる国際協力イベントへの参加

Asia Weekでのイベント実施

↓

11/11(土)1,2限 事後学習Ⅰ,Ⅱ(チームとしてのふりかえり)

↓

12月10日 報告会【シャプラストaff/地域連絡会参加】

【 】内は、シャプラニール始め国際協力団体の協力

<受講生に求めること>

費用	ネパール旅費(予定) 往復飛行機代約15万円,現地交通費3万円、滞在費2万円、ビザ代1万円、通訳等委託費2万円、食費1万5千円、海外旅行保険5千円 合計約25万円 ※本プログラムは立命館大学海外留学チャレンジ奨学金(4万円または2万円)の対象です。
参加の姿勢	異文化理解、ネパール社会が抱える課題の背景への理解
終了後の評価	ネパール現地実習時の学習態度および実習グループ間の学びあいに対する姿勢

<その他、プロジェクト実施にあたって期待すること(教職員も含めて)>

ネパールでのツアー参加のみならず、その前後も「自分たちの社会、暮らしとの重なりは何か」、「自分たちにできることは何か」を考え、積極的に活動されることを期待します。

プロジェクト名:

ネパール・女性×フェアトレードプロジェクト

受入団体名: 特定非営利活動法人シャプラニール＝市民による海外協力の会

募集人数

5名～16名

※「ネパール・子どもスマイルプロジェクト」と「ネパール・女性×フェアトレードプロジェクト」の合計人数

＜受入団体からのメッセージ＞

日本のスーパーやお店でフェアトレード商品を見かける機会が増えてきました。それらを実際に作っている人はどんな人だろう？どんな生活に影響があるのだろうか？そんな疑問のあなたなりの答えを、実際にネパールでフェアトレードの手工芸品を作っている女性たちに会って、一緒に活動したり、交流することで見つけてみませんか？きっと新鮮な発見があると思います。

＜活動期間: 2017年5月～2017年12月 活動日数: 15日程度＞

＜主な実習場所＞

ネパールおよびキャンパス近郊

＜日常的なコミュニケーションの手段＞

(●)電子メール (●)Facebook ()LINE ()電話

＜活動する現場で学生が求められる理由＞

重要なフェアトレード商品の購入国である日本の学生と交流することで、生産者は生産へのモチベーションを上げたり、求められるデザインや品質について学ぶことができると期待しています。

＜活動パターン＞

- () 毎週1日程度・定例
- () 月1～2回・不定期
- (●) 主に夏期休暇・集中
- (●) その他

→具体的には…

キャンパス近郊国際協カイベント
ネパール実習
OIC Asia Weekなど

＜活動のテーマと主な内容＞

貧困女性の自信とフェアトレード

最貧国ネパールの地方部では、現金収入が得られる仕事はわずかです。そんな中、村外にでることが難しい女性たちにとって、手工芸品づくりは定期的な収入を得ることができる大切な仕事です。その収入によって一日に三度の食事ができるようになる、子どもたちを学校に通わせられるようになるなど、たくさんの生産者とその家族の生活を支えています。

この女性生産者によるフェアトレード商品の生産販売に取り組むWSDOで、手工芸品生産のお手伝いなどのボランティア活動を行います。また、生産者のお家を訪問させていただき、家にいながら、あるいは家の近くでできることで、子育てや家事と両立が可能な手工芸品生産の重要性を体感します。織り物、編み物など身近な技術を活かした手仕事を、収入向上につなげるための様々な仕組みを学び、それを構築してきた女性たちのライフストーリーを聞かせてもらいます。

これらネパールでの経験を生かして、帰国後には、日本でできることを企画、実践します

＜期待できる学び＞

途上国において、深刻な問題となっている、貧困や低賃金労働という社会問題について、実際の現場を体感することを通じた深い学びを得ることができます。また、その問題に長年にわたって取り組んできたNGOにおいて、スタッフとともに、女性フェアトレード生産者支援に携わり、生産者の生活を体感することで、解決に向けた活動に加わる機会を得ることができます。

さらに、これらの経験を通して、途上国の女性生産者の自信を作り出すために、私たちがすべきこと、できることを考えるモチベーションを得ることができます。そして、実際にキャンパスもしくはその近郊で、解決に向けた行動をとる機会を模索することができます。

<活動の流れ>

5/21(日)3,4限 事前学習Ⅰ,Ⅱ(ボラとは?興味関心)

6/10(土):3限 ネパールにおける社会課題の理解【シャプラストaffからスカイプなど】
4限 事前学習Ⅲ(目標設定)

↓

6月下旬～8月 関西近郊で行われる国際協力イベントへの参加
【地域連絡会イベント、フェアトレード商品広報などでのボランティア(関西近郊)】
【希望者はユースForumや集いなどへの参加(夏休み 関東近郊)】

7/1(土) 3,4限:コアタイム 社会課題理解のための勉強会など

↓

8/25(金) 4限 中間ふりかえり
5,6限,宿泊,8/26(土)1,2限コアタイム実習準備【シャプラストaff/地域連絡会参加】

↓

9月9日(土)～16日(土)(予定) ネパール実習:ボランティア活動&コアタイム(毎日のふりかえり)
【シャプラ ネパール事務所staff参画】

↓

10/1(日) 2,3,4限 コアタイム 実習ふりかえり&Asia Week 準備
10月～11月上旬 関西近郊で行われる国際協力イベントへの参加
Asia Weekでのイベント実施

↓

11/11(土)1,2限 事後学習Ⅰ,Ⅱ(チームとしてのふりかえり)

↓

12月10日 報告会【シャプラストaff/地域連絡会参加】
【 】内は、シャプラニール始め国際協力団体の協力

<受講生に求めること>

費用	ネパール旅費(予定) 往復飛行機代約15万円,現地交通費3万円、滞在費2万円、ビザ代1万円、通訳等委託費2万円、食費1万5千円、海外旅行保険5千円 合計約25万円 ※本プログラムは立命館大学海外留学チャレンジ奨学金(4万円または2万円)の対象です。
参加の姿勢	異文化理解、ネパール社会が抱える課題の背景への理解
終了後の評価	ネパール現地実習時の学習態度および実習グループ間の学びあいに対する姿勢

<その他、プロジェクト実施にあたって期待すること(教職員も含めて)>

ネパールでのツアー参加のみならず、その前後も「自分たちの社会、暮らしとの重なりは何か」、「自分たちにできることは何か」を考え、積極的に活動されることを期待します。